



ファシリティーうさぎ『エコロじい』

ファシリティーうさぎ『エコロじい』とは、ファシリティーというお茶が大好きな、ECOを愛するウサギの老紳士です。NTTファシリティーズのキャラクターとしてテレビCMなどで当社のECOをご案内しています。



環境へのやさしさが、波紋のように地球全体に広がっていくことを願う、NTTファシリティーズグループの思いを表現しています。そして自らの環境への取り組みも、大きく広げていこうという姿勢の表れでもあります。また、Ecoactivity(環境保護活動)というワードで、環境に対して常に行動を起こしている企業の活力・行動力、真剣さを表現しています。



エコ間伐紙・認定番号 K0301090

この冊子に使用されている用紙は、原料に間伐材を含んでいます。間伐材の活用は、森林保護につながるとともに、CO₂吸収による地球温暖化防止効果も期待できます。



この冊子は、大気汚染の原因の1つであるVOC(揮発性有機化合物)を含まない植物性大豆油インキを使用して印刷しています。



NTT-Green LLP

この冊子の印刷・製本工程で使用した電力(3,000部・362kWh)は、NTT-グリーン有限責任事業組合(NTT-グリーンLLP)が発電したグリーン電力(太陽光)でまかっています。

現像液を使うフィルムが不要で環境負荷低減につながるCTP印刷を採用しています。

■お問い合わせ先

株式会社 NTT ファシリティーズ CSR 推進室

〒108-0023
東京都港区芝浦3-4-1 グランパークタワー

Tel: (03)5444-5187 Fax: (03)5444-5610

Eメール: xa05999@ntt-f.co.jp

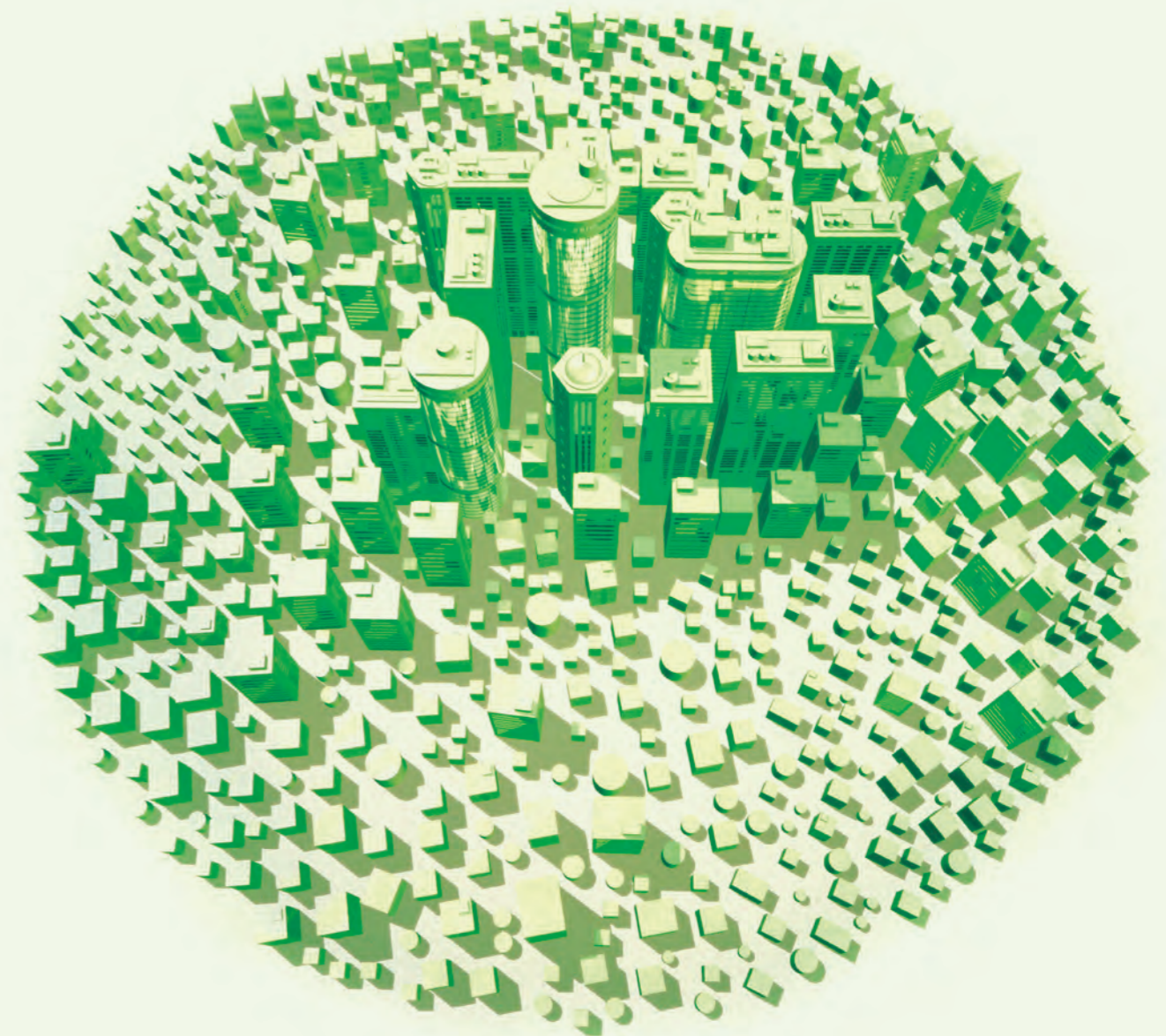
URL: <http://www.ntt-f.co.jp/csr/>



Green Integration

NTTファシリティーズグループ

CSR報告書2012



目次

- 編集方針 1
- 会社概要・経済指標 2
- トップコミットメント 3

NTTファシリティーズのCSR

- NTTファシリティーズのCSR 5

特集: Smart & Safety

Smart “スマートな街づくり”をめざして

- NTTファシリティーズグループがめざす
“スマートな街づくり”とは 7
- メガソーラー 9
- Fデータセンター 11
- スマートビジネス 12

Safety “通信を止めない”という使命と責任

- 東日本大震災からの復興に向けた取り組み 13
- 災害時における
NTTファシリティーズの現場力 15
- 通信を止めないために 16

人と地球のコミュニケーション

- 環境マネジメント 17
- 2020年度に向けた環境の取り組み 18
- 生物多様性の保全 18

安心・安全なコミュニケーション

- 設備の高い安定性と信頼性の確保 19

人と社会のコミュニケーション

- ユビキタス社会の実現に向けて 20

チームNTTのコミュニケーション

- 社会貢献活動 21

- 第三者意見 22

編集方針

本報告書は、2011年度のさまざまなCSRに関する取り組みと実績を報告し、お客さまをはじめとするステークホルダーの皆さまと、より緊密なコミュニケーションを図っていくことを目的に発行しています。

掲載内容は、2006年度に制定（2011年6月一部改定）された「NTTグループCSR憲章」で定めた4つのCSRテーマに基づき構成しており、地球と人類が調和する持続可能で豊かな社会の実現に向けたNTTファシリティーズの事業と、環境保護や社会的課題解決への取り組みなど、ステークホルダーの皆さまにとって重要と思われる情報を選定し報告しています。

■ 報告対象期間

2011年4月1日～2012年3月31日
（一部、2012年4月1日以降の活動と見通しを含んでいます。）

■ 報告組織の範囲

NTTファシリティーズの本社・5支店、7地域会社、およびNTTファシリティーズが出資する4グループ会社としています。（※P2）

■ 発行月

2012年9月（次回：2013年9月予定）

■ 参照ガイドライン

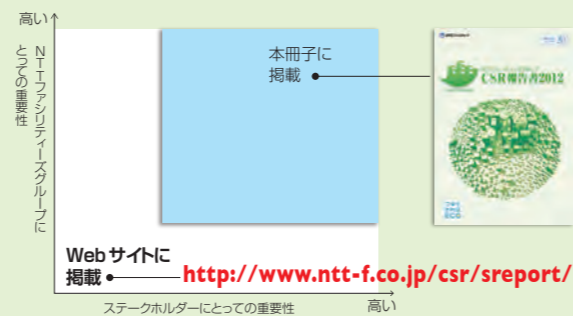
- ・ GRI (Global Reporting Initiative) ガイドライン (第3.1版)
- ・ 環境省「環境報告ガイドライン (2012年版)」

■ 記述について

- ・ 本報告書に掲載した内容は、過去の事実だけでなく、発行時点における計画や将来の見通しを含んでいます。これらは、記述した時点で入手できた情報に基づく仮定や判断も含んでおり、将来の活動内容や結果が掲載内容と異なる可能性があることをご了承ください。
- ・ 本報告書発行後、掲載内容に誤りがあることが認められた場合は、Webサイトにて報告し、正誤表を掲載します。
- ・ 本報告書において、「当グループ」とは、株式会社NTTファシリティーズおよびNTTファシリティーズ地域会社7社、4グループ会社を示しています。
- ・ 本報告書における「社員」とは、一部を除き、契約社員、人材派遣、他を含みます。

報告メディアについて

本報告書は、NTTファシリティーズグループのCSR活動に関して、より重要度の高い情報を本冊子に、スペースの都合で掲載できなかった内容やより詳細なデータは、Webサイトに掲載（開示は2012年9月末予定）します。



表紙について

この表紙のデザインには、2007年4月から提供を開始した環境トータルマネジメントサービス「Green Integration」を通して、地球と社会、そして企業を、豊かな将来へ導いていきたいとの想いを込めています。

会社概要・経済指標

NTTファシリティーズグループは、環境とエネルギーのインテグレーターとして、「IT」×「エネルギー」×「建築」を融合した“統合ファシリティサービス”の提供により環境創造ビジネスを推進しています。

会社概要

- 商号 株式会社NTTファシリティーズ (NTT FACILITIES, INC.)
- 本社所在地 東京都港区芝浦3-4-1 グランパークタワー
- 営業開始日 1992年(平成4年)12月1日
- 資本金 124億円
- 社員数 5,500名(2012年4月1日現在・NTTファシリティーズ・地域会社7社合計)

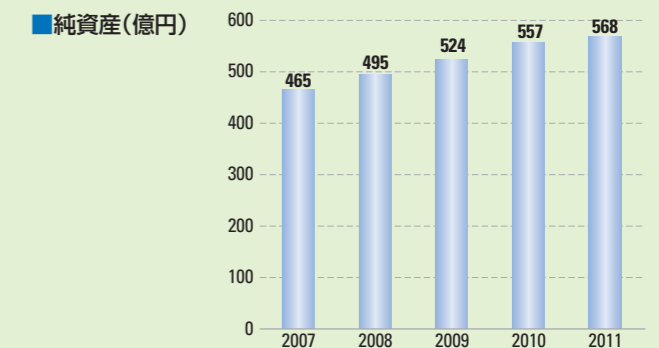
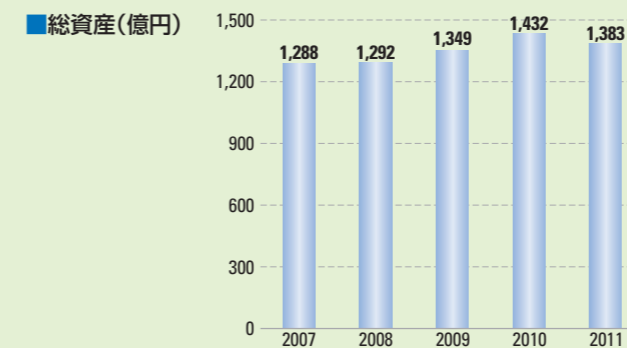
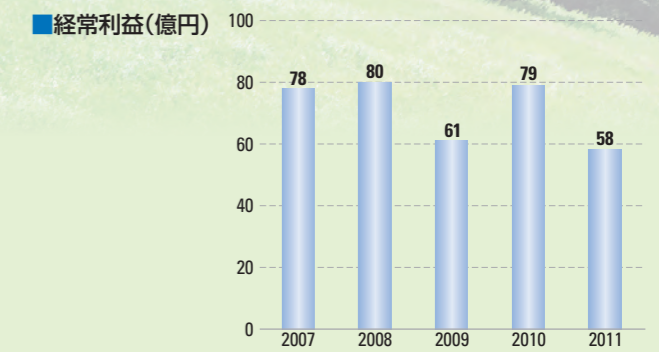
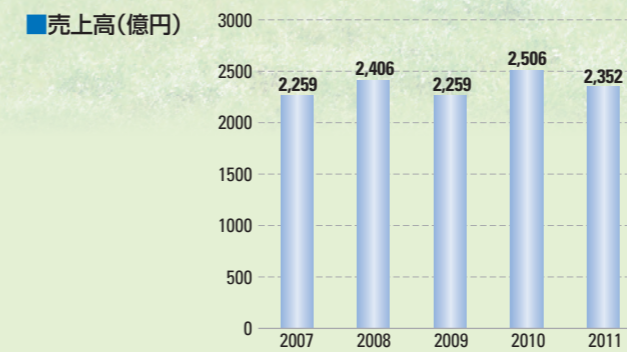
- 地域会社(2012年7月1日現在)
株式会社NTTファシリティーズ中央・北海道・東北・東海・関西・中国・九州
- グループ会社(2012年7月1日現在)
株式会社NTTファシリティーズFMアシスト
エヌ・ティ・ティ ジーピー・エコ株式会社
エヌ・ティ・ティ・インテリジェント企画開発株式会社
株式会社NTTファシリティーズ総合研究所

事業概要
(主なサービス)

- 太陽光発電システム
・ 企画提案から、設計、設置、アフターフォローまでのトータルサポート
- 建物やオフィスの建築設計・診断・改修
・ 建物の新規計画
・ 建物のリニューアル・用途変更
・ 建築プロジェクト全体または一部の管理のアウトソーシング
・ オフィスのリニューアル
・ 建物の構造・耐震診断、リスク診断
・ 屋上緑化
・ 天文台や博物館、学校、図書館等の施設と情報通信ネットワーク構築
- BCP(事業継続計画)、災害対策
・ BCPの策定、訓練
・ 地震・停電・水防・雷害対策
・ 建物・設備等の監視体制の強化

- データセンターやサーバールームの構築と各種対策
・ 省電力で信頼性が高い空調システムの導入
・ DC(直流)給電に対応したデータセンターやサーバールームの構築
・ データセンターやサーバールームの停電・雷害対策の強化
・ データセンター監視・保守のアウトソーシング
・ データセンターのセキュリティ強化
- 建物や各種施設・不動産の維持・管理監視のアウトソーシング
・ 建物の維持・管理と監視のアウトソーシング
・ データセンター監視のアウトソーシング
・ 建物トータルの省エネルギー化
・ 電気設備の点検、効率化など運用のアウトソーシング
・ 不動産の有効活用
・ 建物やデータセンターのセキュリティ強化
- 電力管理と電力供給
・ 電力監視や診断による省エネルギー、コスト削減対策
・ マンションの受変電設備建設コストの削減対策
・ 電気料金の削減対策

営業成績・財産状況の推移



地球環境を考えた“統合ファシリティサービス” 「Smart & Safety」な街づくりに貢献してい を提供し続けることで、 きます。



株式会社NTTファシリティーズ
代表取締役社長

筒井 清志

地球環境を考える上で大きな節目となった1992年の「国連環境開発会議（地球サミット）」は、「環境と開発に関するリオ宣言」やそれを具体化するための「アジェンダ21」の採択、気候変動枠組条約や生物多様性条約への署名開始など、今日に至る地球環境の保護や持続可能な社会の考え方に大きな影響を与えました。

当社は、「地球サミット」の開催と同じ1992年に、情報環境のクリエイターとして発足しました。その事業コンセプトは、「IT」×「エネルギー」×「建築」の掛け算的融合の発想で、「お客様から最も信頼されるパートナーとなる」ことをめざし、事業活動に取り組んでまいりました。以来20年、激変する社会環境のなかでここまで事業を進めてこられたのも、ひとえにお客さまや関係者の方々からのご支援の賜物であると心より御礼申し上げます。私たちは、地球環境を考えた“統合ファシリティサービス”を提供し続けることで、「Smart & Safety」な街づくりに貢献していきたいと考えています。

■「Smart」な街づくり

昨年の東日本大震災を契機とする電力不足により電気エネルギーが経済社会の重要なインフラであることを痛感させられると共に、太陽光発電を中心とした再生可能エネルギーの普及・拡大による低炭素社会の実現と合わせて、国全体の電力供給構造やエネルギー政策を根底から見直す必要に迫られています。

これからは自然災害等のリスクに強く、環境にもやさしいエネルギー源が求められるだけでなく、その利用に当たっても無駄のない効率的な利用方法が求めら

れます。私たちはこれらの課題に対して、日本の通信を長きにわたって支えてきたIT・エネルギー・建築の技術を最大限に融合・活用し、太陽光発電のシステムインテグレーターとして最適なシステムを構築することや、ICTを活用する技術で無駄のないエネルギーネットワークを構築することで、スマートな街づくりに貢献します。また、消費電力量が急増しているデータセンターや昼間に大量の電力を消費するオフィスビルの省エネルギー化を実現します。

■「Safety」な街づくり

一方、昨今の地震や台風・落雷といった自然災害の多発や大規模停電の発生等により、建物や設備の信頼性の確保や企業のBCP（事業継続計画）の重要性が改めて注目されています。経営資源をいかにリスクから守り、事業を継続していくかということは、企業が社会を構成する一員として果たすべき「社会的責任」として問われ、その成否が会社業績に多大な影響を与えかねない大きな課題になっています。

NTTグループが100年以上にわたり受け継いだ「通信を止めない」という使命のもとで、私たちが培ってきたIT・エネルギー・建築の技術はこれらの課題へのソリューションとなるものと確信しており、さまざまなリスクに対応した事業継続計画の実現等により、セーフティな街づくりに貢献できるものと考えています。

また、NTTグループ各社とも連携した積極的なグローバル事業を展開すべく、2010年には米国および中国に海外現地法人を設立し、シンガポール支店を開設

しました。これからも安心と安全を提供するサービスを一層磨き上げ、皆さまのパートナーとしてご期待に応えていく所存です。

■すべてに優先する 「安全」と「CSR」の推進

当グループは、「安全」と「CSR」を、企業活動の最重要課題と位置づけています。企業も社会の一員である以上、「安全」と「CSR」は、何よりもすべてに優先”させることを基本に、社員はもとより、協力会社等とも一体となり、安全が「企業文化」として浸透するよう取り組んでいます。

CSRについては、「企業倫理」「情報セキュリティ」「環境保護」「人権啓発」を4本柱と位置づけ、さまざまな活動に取り組んでいます。

「企業倫理」ではNTTグループ企業倫理憲章に基づき高い倫理観を持って事業を運営し、不正・不祥事のない企業風土を維持し続け、「環境保護」では人類が自然と調和し、未来にわたり安心・安全で豊かな社会の実現のための活動を進めています。また「情報セキュリティ」ではお客さまの個人情報を含むすべての情報に対するセキュリティの確保・向上に努め、「人権啓発」では、あらゆる差別を許さない企業体質の確立を基本方針として、積極的な啓発活動を展開しています。

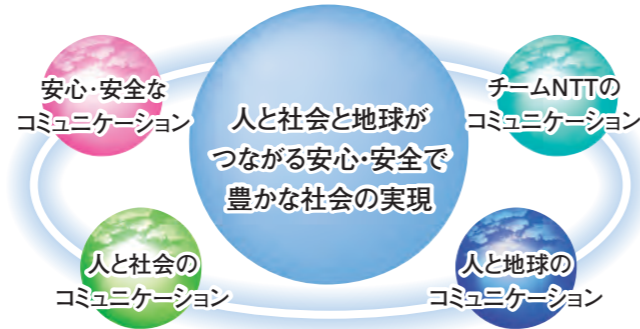
今回発行しました「NTTファシリティーズグループCSR報告書2012」では、幅広い環境事業や社会貢献活動をはじめとする当グループのCSRの取り組みをご紹介しますので、ご高覧いただければ幸いです。

NTTファシリティーズのCSR

NTTファシリティーズグループでは、「NTTグループCSR憲章」で定めた4つのCSRテーマを基本に、事業活動を通じて社会の持続的な発展に貢献していくことを経営の目標として、社員一人ひとりが自己の向上に努めつつCSR活動に取り組んでいます。

NTTグループCSR憲章 ▶ 参照URL <http://www.ntt.co.jp/csr/>

NTTは、グループ各社が推進してきたCSRをより積極的な活動をするための基本方針として、2006年6月、グループのCSRのあり方を表現した「CSRメッセージ」と、具体的な重点取り組み項目を示した4つの「CSRテーマ」で構成する「NTTグループCSR憲章」を制定しました。また、ISO26000の発行を踏まえ、2011年6月、「チームNTTのコミュニケーション」の内容が一部改定されました。



CSRメッセージ

私たちNTTグループは、情報通信産業の責任ある担い手として、最高のサービスと信頼を提供し、「コミュニケーション」を通じて、人と社会と地球がつながる安心・安全で豊かな社会の実現に貢献します。

CSRテーマ

人と社会のコミュニケーション

1. 私たちは、より豊かで便利なコミュニケーション環境を実現するとともに、情報通信技術を活用し、人口減少・高齢化社会におけるさまざまな課題解決に貢献します。

人と地球のコミュニケーション

2. 私たちは、自らの環境負荷を低減し、地球にやさしいコミュニケーション環境を構築するとともに、情報通信サービスの提供を通じて社会全体の環境負荷低減に取り組めます。

安心・安全なコミュニケーション

3. 私たちは、情報セキュリティの確保や通信の利用に関する社会的な課題に真摯に取り組み、安心・安全な利用環境と新しいコミュニケーション文化の創造・発展に尽くします。

チームNTTのコミュニケーション

4. 私たちは、社会を支え生活を守る重要なインフラとして、災害時にも強い情報通信サービスの提供に努め、いつでも、どこでも、だれとでもつながる安心と信頼を提供します。

5. 私たちは、「チームNTT」として、高い倫理観と人権意識を持って事業に取り組み、働きやすい職場環境の整備や個の成長・多様性の尊重に努めるとともに豊かな地域社会づくりを推進し、社会的使命を果たして行きます。

※チームNTTは、派遣社員・契約社員も含めたNTTグループで働く社員、パートナーの皆さま、NTTグループのCSRに賛同する退職した方々で構成されています。

CSRマネジメント体制

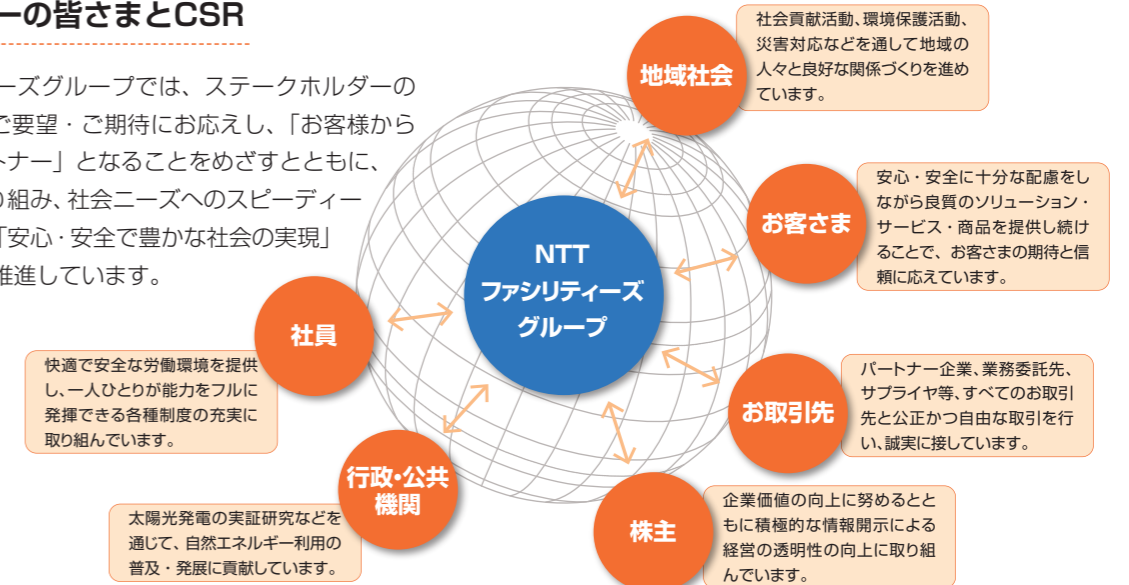
NTTファシリティーズグループでは、CSR活動を継続的かつ適切にマネジメントしていくため、活動の4本柱である「企業倫理」「情報セキュリティ」「環境保護」「人権啓発」ごとに社内委員会を設置し、企業ビジョンとの整合性を確保しつつ、基本方針・制度・基準・活動要領などを策定し、研修等の一体的な

運営を行っています。

また、CSR推進室を本社と各地域会社に設置し、本社CSR推進室を中心に緊密な連携を図りながら、当グループおよびグループ会社の一体感を高め、横断的なCSR活動を推進しています。

ステークホルダーの皆さまとCSR

NTTファシリティーズグループでは、ステークホルダーの皆さまのさまざまなご要望・ご期待にお応えし、「お客様から最も信頼されるパートナー」となることをめざすとともに、企業価値の向上に取り組み、社会ニーズへのスピーディーな対応を基本として「安心・安全で豊かな社会の実現」に向けたCSR活動を推進しています。



コーポレート・ガバナンスの強化

経営の健全性と透明性、お客様や社会からの信頼を維持し、企業価値を継続して高めていくため、コーポレート・ガバナンスを経営の重要課題と位置づけ、ガバナンス体制を構築しています。

取締役会・監査役会の構成

取締役会は取締役で構成され、原則、月1回開催する取締役会において、経営に関する重要事項を関係法規、経営判断の原則および善良なる管理者の注意義務等に基づき決定するとともに、取締役の職務執行の相互牽制等を行っています。

監査役会は、監査役で構成され、原則、月1回監査役会を開催するほか、各監査役は、取締役会など重要な会議に出席しています。

経営会議と各種社内委員会

NTTファシリティーズでは、会社の重要事項について、原則として、社長、副社長、常勤取締役および各組織長で構成する経営会議における審議を経たうえで決定しています。

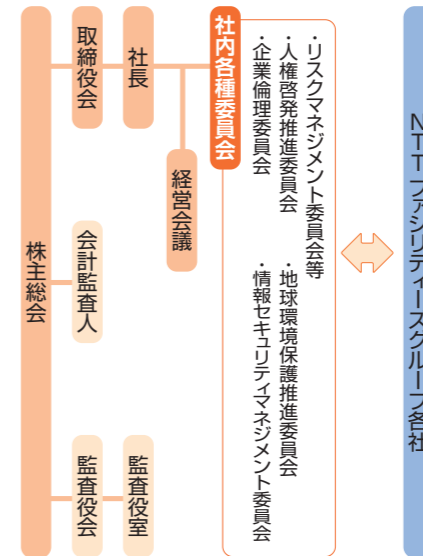
また、会社経営・グループ経営に関する重要事項を課題ごとに議論し、適正な意思決定を行うための各種委員会を設置しています。

リスクマネジメント

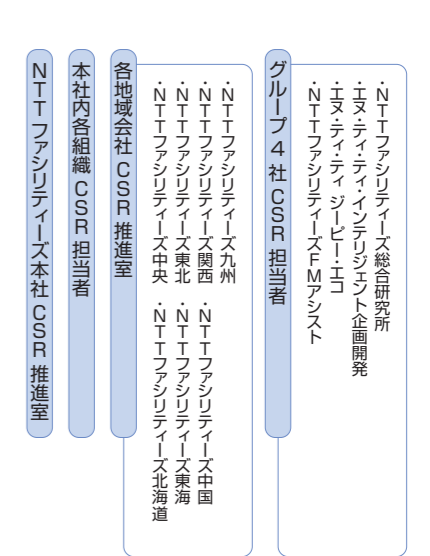
NTTファシリティーズでは、迅速かつ適切なリスクマネジメントを行うことにより、事業活動における損失の未然防止、損失最小化を図り、企業としての持続的発展に資することを目的として、社長を委員長とする「リスクマネジメント委員会」

を設置しており、事故等に関する原因の究明、再発防止策の検討、事業活動上のリスク回避に関する全体的方針や対策などを決定し、万が一リスクが顕在化した場合でも損失を最小限に抑えることができるよう努めています。

NTTファシリティーズのガバナンス体制



NTTファシリティーズグループ CSR推進体制



Smart “スマートな街づくり”をめざして

NTTファシリティーズグループがめざす “スマートな街づくり”とは

NTTファシリティーズグループは、「Smart & Safety」をテーマに掲げ、IT×エネルギー×建築の技術を組み合わせたさまざまなソリューションで、安心・安全・スマートな街づくりをめざした取り組みを展開しています。

今求められる「スマートさ」

地球温暖化問題に加え、東日本大震災を契機とした電力不足で節電が求められる今日、電力の需給バランスを図ることは必須の課題です。これからは自然災害等のリスクに強く、環境にもやさしいエネルギー源だけでなく、その利用にも効率的な方法が求められます。

NTTファシリティーズグループは、これらの課題に対して、無駄のないエネルギーネットワークを構築するとともに、消費電力量が急増しているデータセンターや、昼間に大量の電力を消費するオフィスビルの省エネルギー化をめざしています。

スマートなエネルギーマネジメント

スマートコミュニティには、需要家における創エネ・蓄エネ・ネガワットなどを新たなエネルギーミックスとして加え、最適に制御して運用するエネルギーマネジメントが必要です。NTTファシリティーズグループでは、ICTを活用してエネルギー需給情報を双方向にやり取りし、電気と熱の最適制御を実現する、ビル向けのエネルギーマネジメントサービスを展開しています。一方、節電によって使われなかったエネルギーを集約し電力会社に提供する「アグリゲーションサービス」の取り組みも始めています。また、以前から提供している次世代の太陽光発電システム「メガソーラー」や、高いエネルギー効率を実現するスマートな「Fデータセンター」のほか、スマートコミュニティの重要な要素となる電気自動車（EV）については、「急速充電器」の商品化を手がけています。そして、これらをネットワークに接続することで、スマートコミュニティを形成していきます。

3つのステップで“スマートな街づくり”を

地球環境にやさしい持続可能な社会を実現するための手段として、スマートコミュニティが注目されています。また東日本大震災以降、各地で災害に強い街づくりをめざす動きが活発になり、新たな街づくりのコンセプトに取り上げられることも多いスマートコミュニティの意義はますます大きくなっています。

NTTファシリティーズグループは、「Smart & Safety」をテーマに掲げ、ビル・マンション単位（ステップ1）、スマート群管理（ステップ2）、そしてスマートコミュニティ（ステップ3）の3つのステップで、それが実現されると想定しています。

Fデータセンター

省エネ・低コストで高信頼なデータセンターの企画から構築、運用までのトータルソリューション



国内データセンターの約30%に関わった高い実績と最先端のファシリティ技術によって、消費電力最大50%削減をめざした省エネルギーで高信頼な次世代データセンターを提案します。
詳細は [P11](#)

GreenTy Building

環境・人・社会が共生するスマートな建築づくりを



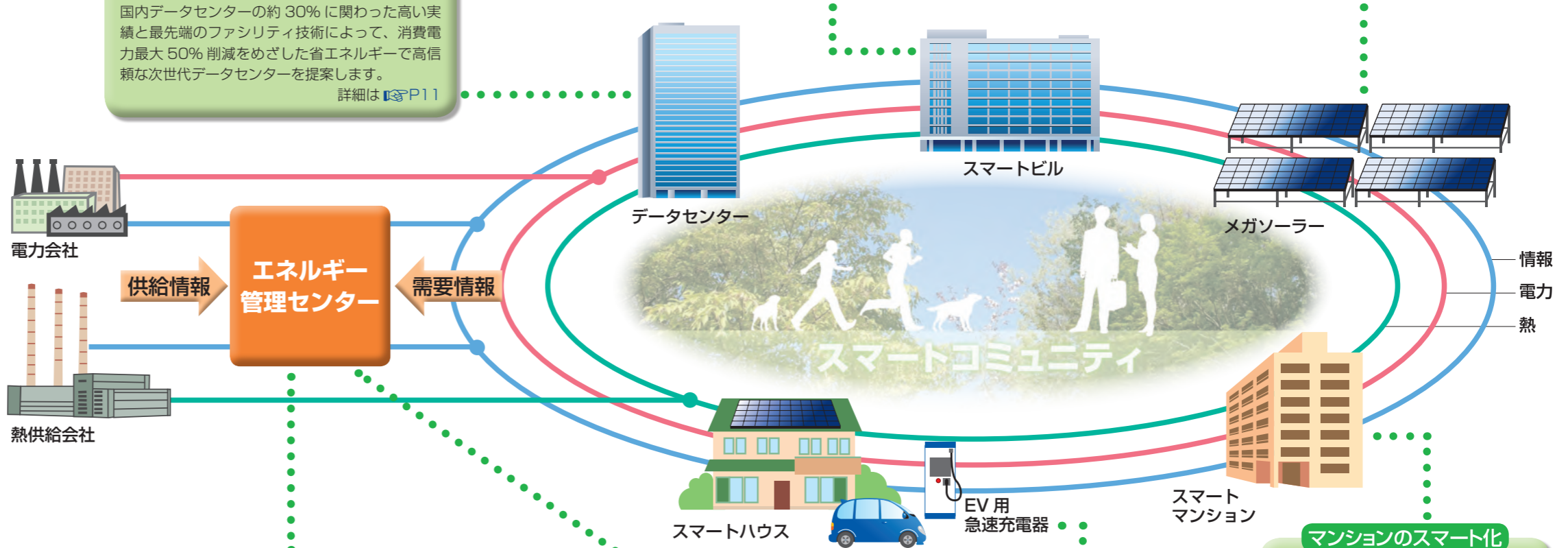
環境にやさしい建物設計で、ビルの消費エネルギー量を削減。「GREEN」「IT」「BCP」の3つを効果的にインテグレートし、幅広い用途に対応、さまざまなニーズに応えます。
詳細は [Web](#)
<http://www.ntt-f.co.jp/csr/sreport/envre2012/index.html>

メガソーラー

スマート・エネルギーへ。大規模な太陽光発電のシステムインテグレーター




50年の歴史と全国910カ所、34MW（メガワット）以上*を設置してきた実績・技術をもとに、太陽光発電システムを構築。お客様のニーズに沿って、企画提案から運用までをトータルサポートします。*2012年3月末現在
詳細は [P9](#)



ネガワットアグリゲーションサービス

ネガワットを束ねることで創出する新たな電源



ネガワットアグリゲーションとは、お客さまによる省エネ行動や電力使用機器を遠隔制御することにより創出される節電（＝ネガワット）を集約（＝アグリゲート）し、エネルギー供給業者に提供するものです。NTTファシリティーズグループはネガワットアグリゲーションを行うために、複数ビルやテナントのエネルギー管理が行える、エネルギー管理支援サービスの提供を2012年に開始しました。EMS*を用いることにより、無理の多い節電ではなく、賢い節電を可能にします。
*エネルギー管理システム：エネルギー管理を行い最適化を図るもの
詳細は [P20](#)

FITBEMS

先端のICTを駆使し低コストで均質な制御・管理を実現



ICTを活用してエネルギー需給の最適運用をエネルギー管理センターで行うシステム。Web上でエネルギー使用状況を「見える化」し、節電やピークカットをサポートします。
詳細は [P20](#)

EV用急速充電器

スマートコミュニティ形成に不可欠なネットワーク対応型



コミュニティ全体で電力をコントロールするには、ネットワークでの管理が必要となるため、スマートコミュニティとEVのつなぎ役になると考えています。
詳細は [P12](#)

マンションのスマート化

EnneVisionによるマンションのスマート化



電力の需給バランスを確保するための節電が求められるなか、電力消費の「見える化」で省エネ、節電に貢献します。
詳細は [P12](#)

Smart

メガソーラー

太陽光発電システムの企画・提案から構築・運用までを一元的に管理するシステムインテグレーターとして、企業・自治体での太陽光発電システムの導入をサポートしています。

Fソーラーリサーチパーク

概要・経緯

「Fソーラーリサーチパーク」は、山梨県北杜市の全面的な協力を得て構築する太陽光発電実証サイトです。「北杜サイト太陽光発電所*1」と連携した世界的に類を見ない評価・検証を通じ、太陽光発電の未来を担うシステムインテグレーターとして、最高峰の太陽光発電システムの提供に挑みます。

目的・効果

次の3つのエリアで、各種技術の評価・検証を行います。

①モジュール評価エリア

国内外の最新モジュール*2を実環境下で長期運用し、太陽電池の各種特性を検証・評価します。また、最新の太陽電池を随時追加導入し、世界最先端のモジュールを実証評価します。

②架台検証エリア

実環境下で独自開発の架台の設置・運用性を検証・評価し、特性を把握することで大規模太陽光発電への展開をめざします。

③設計技術検証エリア

太陽光発電システムの設計・運用に関する検証・評価を行い、より最適なシステムの構築・運用の基盤となるノウハウを蓄積します。



最終完成イメージ

今後の展開

最終的には、2MW級の施設構築を計画しています。隣接する北杜サイト太陽光発電所とともに、太陽光発電システム最先端のノウハウを蓄積する世界的な実証サイトとしてのポジションをめざします。

*1 北杜サイト太陽光発電所

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）委託事業「大規模電力供給用太陽光発電システム安定化等実証研究」を行った施設。実証研究終了後にNEDOから北杜市へ施設譲渡され、北杜市営の太陽光発電所として2011年4月から開所。

*2 太陽電池モジュール

太陽電池セル（太陽電池の基本単位）を必要枚数まとめ、樹脂や強化ガラス、金属枠に納めた一単位。

担当者から 長井恒樹 / 正木秀明 / 梅山記子



本実証サイトでの検証・評価を通じて、NTTファシリティーズの設計・提案品質の向上に努めるとともに、太陽光発電のさらなる技術発展に尽力し、再生可能エネルギー普及、地球環境の保全に貢献していきたいと考えています。

▶ 関連ホームページ <http://www.ntt-f.co.jp/news/heisei24/h24-0210.html> (ニュースリリース)

太陽光発電診断システム

概要・経緯

太陽光発電はメンテナンスフリーと考えられてきましたが、近年の実態調査では住宅用システムの34%で発電性能にかかわる不具合の発生が報告されています。また、太陽光発電は気象条件により発電出力が左右されるため、出力の低下が天候によるものか不具合によるものかを判断することが難しいという課題がありました。

*気象データ、発電履歴、同一環境下のシステム情報をもとに、発電量やシステム効率の期待値を予測し、実績値と比較する評価技術（特許出願中）

■発電診断システム*運用イメージ



目的・効果

太陽光発電診断システムは、太陽光発電の設置場所における気象データおよび発電データをもとに、発電量の期待値を豊富な研究実績から得た推定法により算出するとともに、実績値と比較し差分が閾値より大きい場合に不具合と判定します。これにより、これまで気づきにくかった不具合を発見できます。

担当者から 工藤 満 / 小塚勝彦



再生可能エネルギーの固定価格買取制度の導入により、期待される発電量の確保が必要不可欠と考えられます。今後は太陽光発電診断システムのセンシング項目を拡充し、細かな不具合も見逃さないシステムへの進化をめざします。

▶ 関連ホームページ http://www.ntt-f.co.jp/service/mega_cor/ (商品・サービス紹介)

停電対応型太陽光発電システム [Advanced SOLAR]

概要・経緯

2011年3月の東日本大震災発生時の停電やその後の電力不足における計画停電時に、「太陽光発電システムの電気が利用できず残念だった」との意見が寄せられました。こうした状況を踏まえ、CO₂削減だけでなく、節電や停電対策として活用できる停電対応型太陽光発電システム「Advanced SOLAR」を提案しています。

目的・効果

機能別に3タイプ（図参照）があり、いずれも通常時は発電した電気を自家消費もしくは電力会社へ売電を行い、停電時はパワーコンディショナ*1が自立回路に切り替わり停電時使用設備へ電気を供給します。またType2-1は、蓄電池の搭載で夜間・不日照時の停電でも安定した電力供給が可能、Type2-2は、通常時は産業用では初となるピークカット機能*2による節電対策が可能です。

- *1 **パワーコンディショナ (PCS; Power Conditioning System)**
太陽電池で発電した電気が直流であり、この発電した電気を電力系統へ流す際、系統と同じ交流に変換するための装置。
- *2 **ピークカット機能**
ピーク電力を抑えるために蓄電池放電を行い、電力系統からの買電量を調整する機能。

担当者から 岩戸 健



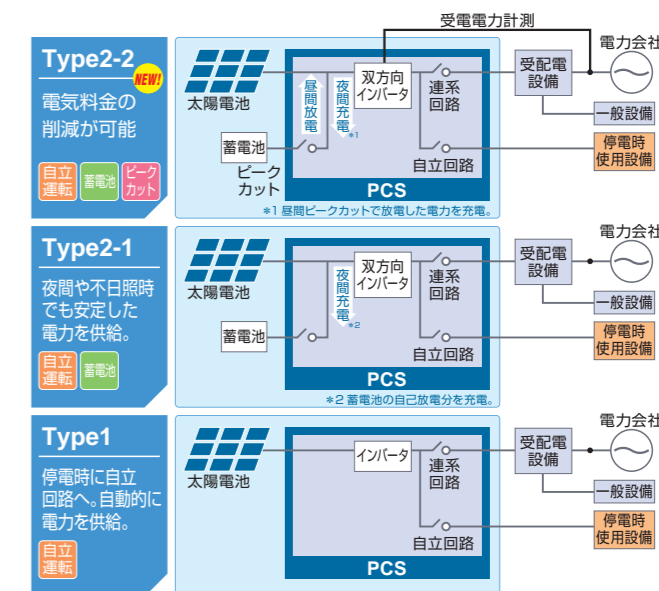
「太陽光発電」と「蓄電池」を組み合わせる停電対応型太陽光発電システムは、お客様のニーズをとらえ、それを形にするシステムインテグレーターだからこそ提案可能なシステムです。今後も、お客様のニーズをとらえ、市場に受け入れられる提案で社会に貢献していきます。

▶ 関連ホームページ http://www.ntt-f.co.jp/service/ad_sola/ (商品・サービス紹介)

今後の展開

不具合検出後は、迅速に復旧させることが重要です。故障修理やシステム規模によっては必須となる定期点検などをメニュー化した太陽光発電保守サービスと組み合わせることにより、総合的な保守サービスを提供します。

■Advanced SOLARサービスメニュー



今後の展開

2011年夏からの営業・販売開始以降、太陽光発電システムの導入を検討中の自治体（災害時に避難場所となる施設等）や学校関係者から多くの問い合わせをいただいています。現在は鉛蓄電池のみに対応したシステム構成ですが、今後はリチウムイオン電池の採用による省スペース化やシステム使用環境温度の広範囲化を実現し、さまざまな地域・施設への導入を可能とする予定です。

Smart

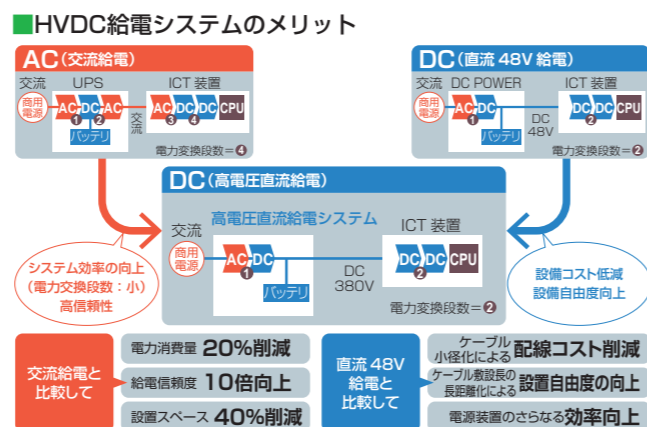
Fデータセンター

NTTファシリティーズグループでは、豊富な経験と実績から生まれたソリューションを提供し、データセンターのグリーン化を促進することで、環境負荷の低減に貢献しています。

「省エネ・安心・安全」世界最先端の次世代給電システム

クラウドコンピューティングの進展やICT装置の高性能化・高密度化にともない、データセンターにおける消費電力量の増大が避けられない状況です。NTTファシリティーズでは、地球環境にやさしい次世代給電方式である高電圧直流（High Voltage Direct Current：HVDC）給電システムを開発し、データセンターでの省エネ化を支援しています。

本システムはICT装置への給電電圧を約380Vにすることで、従来の通信用直流給電システムの高い品質を踏襲しつつ、主流である交流給電システムに比べ、消費電力量を最大20%削減、給電信頼度を10倍向上、電源スペースを最大40%削減する効果が期待できます。



担当者から 平川一貴 営業本部 ソリューションビジネス部 データセンター担当



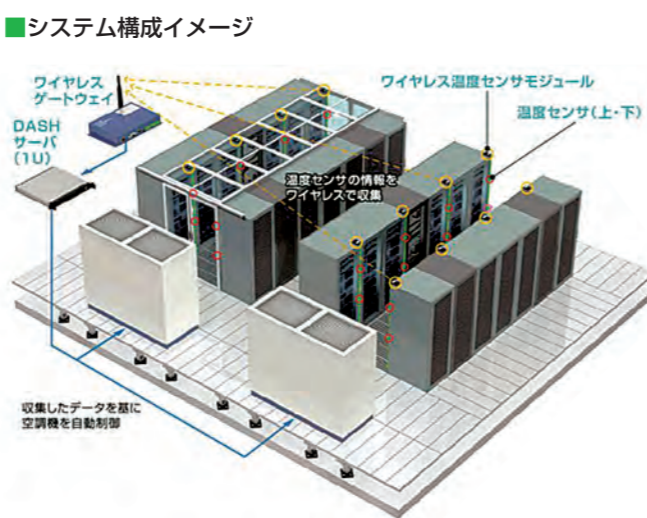
東日本大震災以降、データセンターに対し「信頼性」と「経済性」の両立というニーズがさらに高まっています。そのニーズに対応すべく、HVDCをはじめとする各種データセンター向けソリューションの開発、普及に努めていきます。

- ▶ 関連ホームページ
<http://www.ntt-f.co.jp/news/heisei23/h23-1110.html> (ニュースリリース)
<http://www.ntt-f.co.jp/news/heisei23/h23-1121.html> (ニュースリリース)
<http://www.ntt-f.co.jp/news/heisei24/h24-0206.html> (ニュースリリース)

世界初の学習機能を持つデータセンター用空調制御システム「Smart DASH®」

データセンター用スマート空調制御システム「Smart DASH®」は、データセンターやサーバーラーム内に張り巡らせたワイヤレス温度センサと空調機を関連付け、各センサの計測値の変動に合わせて各空調機を個別に自動制御し、最適な空調環境と省エネを実現するものです。

「温度分布改善」「省エネ」「見える化」といった課題を解決するシステムであり、空調消費電力を約10～30%削減できます。NTTグループを中心に、国内のデータセンターに対しても導入実績を伸ばしており、今後は長期的な効果の確認、活用手法の高度化などを進め、環境配慮型次世代データセンターへの提案を広く展開していきます。



担当者から 山内麻梨絵 営業本部 ソリューションビジネス部 データセンター担当



すでに本システムを導入した事例では、アイルキャッピングなどのソリューションを組み合わせることで、温度分布の改善とともに、空調消費電力を約30%削減しました。このように空調環境を最適化することで、効率的なデータセンターの運用に寄与します。

- ▶ 関連ホームページ
http://www.ntt-f.co.jp/service/aco_dash/ (商品・サービス紹介)
<http://www.ntt-f.co.jp/news/heisei23/h23-0118.html> (ニュースリリース)

Smart

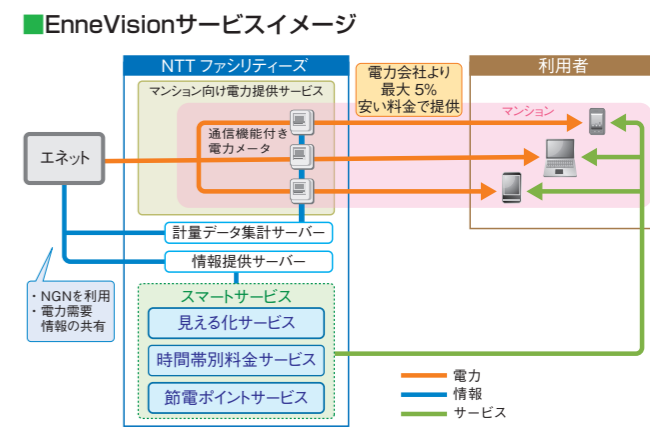
スマートビジネス

NTTファシリティーズグループが培ってきた「エネルギー機器・ビル運用技術」や「エネルギー最適供給制御技術」などの強みを活かし、低炭素社会に貢献するスマートコミュニティ構築に取り組んでいます。

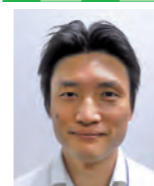
マンション向けデマンドレスポンスサービス「EnneVision(エネビジョン)」

NTTファシリティーズグループは、「マンション向け電力提供サービス」をご利用いただいている入居者を対象に、マンション向けデマンドレスポンスサービス「EnneVision(エネビジョン)」を提供しています。

本サービスは、NTTファシリティーズ、エネット、利用者の三者がICTを活用して電力需給情報を活用することで、利用者の節電を支援します。電力使用量やCO₂排出量がリアルタイムで確認できる「見える化サービス」、昼間の使用電力の低減などを誘導する「時間帯別料金サービス」、節電要請に応じて使用電力を抑制した利用者に対し、電気料金の支払いに利用可能なポイントを還元する「節電ポイントサービス」を提供しています。今後は「我慢の節電」から「賢い節電」へシフトし、スマートな街づくりへ貢献していきます。



担当者から 川崎琢磨 エネルギー事業本部 スマートエネルギー推進部 マンション電力供給担当



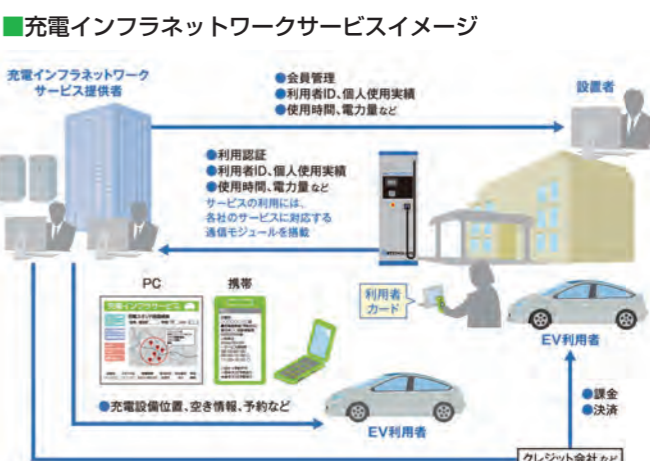
今まで「我慢」のイメージがあった節電ですが、本サービスのご利用者様からは、ゲーム感覚で楽しめる等のご好評をいただきました。これからも、お客さまにご満足いただけるスマートコミュニティを実現するサービスの提供に努めていきます。

- ▶ 関連ホームページ
http://www.ntt-f.co.jp/service/ene_apart/ (商品・サービス紹介)
<http://www.ntt-f.co.jp/news/heisei24/h24-0828.html> (ニュースリリース)

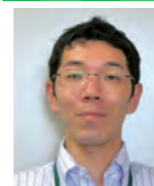
電気自動車用急速充電器「通信ネットワーク対応型」の新シリーズ

電気自動車（EV）用急速充電器は、スマートコミュニティを形成する上で欠かせない要素の一つです。短時間での充電が可能な急速充電器は、EVの普及とインフラ整備において重要な役割を果たします。

NTTファシリティーズグループは、通信用の直流電源技術で培った豊富なノウハウを活かし、2011年9月、従来タイプより安価で機能が充実した電気自動車用急速充電器をリリースしました。通信ネットワーク対応機能を追加したことで、設置者は利用実績の管理や利用状態の把握が容易となり、また将来的にはユーザーも充電器の設置場所や空き情報の把握、予約などがPCや携帯電話で行えるなど、利便性が高まります。



担当者から 菊地孝明 エネルギー事業本部 技術部 蓄エネ担当



今後EVは移動型の蓄電池として利用することができます。コミュニティ全体で電力をコントロールするにはネットワークでの管理が必要となり、このネットワーク対応型の急速充電器はスマートコミュニティとEVを結ぶ重要なパーツになると考えています。

- ▶ 関連ホームページ
http://www.ntt-f.co.jp/service/ev_charge/ (商品・サービス紹介)

Safety “通信を止めない”という使命と責任

東日本大震災からの復興に向けた取り組み



甚大な被害をもたらした2011年3月11日の東日本大震災。NTTファシリティーズグループでは、「通信を止めない」という使命と責任のもと、被災地の復興に向けた通信サービスの本格復旧のため、NTTファシリティーズ東北を中心に、全国の総力を挙げた復旧活動を着々と進めています。

津波により 500m 流出した七ヶ浜ビル（左）と跡地（右）

本格復旧推進体制の構築

2011年3月の東日本大震災発生から2011年6月までは、本社・東北支店の災害対策本部が中心となり、全国から支援者を派遣し、応急復旧および仮復旧に取り組みました。その後の本格復旧においてもNTTグループ各社と連携し、自治体等の復興計画と連動した本格復旧業務を一元的に推進する体制として、社長直轄の組織「東北復興推進室」を設置。これまでの復旧活動と同様に東北支店および全国の各ブロック支店支援者が一体となり本格復旧に取り組みました。



東北復興推進室

津波被災ビルに対する本格復旧

津波により被災したビルの本格復旧に当たっては、被災状況に応じて、①津波浸水エリア以外の高台への移転、②現状ビルの建物構造を検討のうえ、重要室防衛などの水防対策を実施しました。

高台へ移転させるにあたっては、短期間で多数の通信ビルを一定の品質で完成させるべく、標準設計を採用し、多様な立地環境（山林、宅地など）や周辺環境にも配慮した建物プロポーシオンとしました。また、金属勾配屋根採用による耐久性や庇による外壁防汚性を強化するなど、これまで以上のメンテナンスフリーをコンセプトとし、省エネ・環境にも配慮した太陽光パネルが設置可能な屋根やLED照明を採用しました。移転場所の選定においては、今回の大震災と同規模の津波が発生した場合でも機能維持できるよう、水防レベルや保守要員の駆け付け経路等を考慮しました。

現状のビルを継続して利用する場合は、現状躯体にて倒壊や滑動・転倒しないことを確認し、低層階の油タンク室、ガス施設室、ケーブル室等の重要室を強固な壁で防衛するとともに、電力設備等は上階へ移設しました。



新 NTT 七ヶ浜ビルの内部工事状況



新 NTT 七ヶ浜ビルの外観



約 1.2km 陸側に新たな土地を取得し高台へ移転



屋上に設置した非常用発電機

地震による建物損傷部分の復旧

地震動による建物の外壁の破損、天井の落下、地盤沈下等の改修に数ヶ月程度必要なビルにおいては、震災前の安全性・信頼性の確保に向けた復旧に加え、耐震性能を持たせた震災後の基準に合わせた復旧を行いました。五橋第一ビル外壁復旧においてはPC板を撤去し、軽量で変形追従性のあるアスロックに更改しました。また、周辺のアスファルトが波打つほどの液状化に襲われたところでは、地盤改良などの対策を講じました。



外壁を改修した五橋第一ビル

電力設備の信頼性確保

東日本大震災では、停電範囲が広域におよび、停電時間も長期にわたる被害でした。移動電源車のオペレーションにより電源途絶を防いできましたが、津波による瓦礫で通行を妨げられるなど、広域長時間停電以外の要因が重複したことで、蓄電池が過放電となり蓄電池の劣化を誘発する事態に至りました。過放電となった蓄電池を継続使用することは通信品質を担保できない恐れがあるため、これら対象蓄電池を2011年度内にすべて更改しました（福島原発立入禁止区域内の設備を除く）。

また、広域かつ長時間の停電に対する強化対策として、非常用発電機の新たな設置や燃料オペレーションを考慮した油タンクの容量増などを行い、さらなる電力設備の信頼性向上に努めました。



更改した蓄電池

担当者から 守田和雄 東北復興推進室 企画担当



全国各組織や協力会社が一丸となり取り組んだ結果、本格復旧活動においても概ね計画どおりに実施できました。特に高台移転の土地選定においては、被災地の住民の皆さまから積極的にご協力をいただいたことを非常にうれしく思います。今後も当社の技術・ノウハウを活かし、市町村の復興計画に貢献していきます。

Safety

災害時における
NTTファシリティーズの現場力

2011年9月3日に日本を襲った台風12号は、近畿地方に甚大な被害をもたらしました。NTTファシリティーズグループでは、NTTグループ各社等と連携をとりながら通信施設の状況確認や電源供給を行い、通信確保・早期復旧に努めました。

交通網が遮断された天川（左）と土砂崩れや倒木の被害を受けた重里（右）

台風12号奈良県内災害復旧現場

「情報連絡室」の設置

2011年9月2日、NTTファシリティーズ関西奈良支店では、台風12号の奈良県内上陸前から進路を注視し、『情報連絡室』*1を設置しました。その時点で重要ビルにある非常用発電機の始動試験の実施、レンタルエンジンおよび搭載用トラックの確保、移動電源車やケーブル類などの確認作業を行い、24時間監視体制を構築し、緊急事態に備えました。

寸断された国道を迂回してレンタルエンジンを搬送

しかし予測を超えた記録的な豪雨により、県内各地の通信施設への商用電源が停止。9月3日の時点で奈良支店管内では、停電24ビル、サービス断をとまなう被災13ビル、4,000回線を超える故障が発生しました。

森林地帯の吉野地区（吉野郡および五條市）では、通信施設の電源確保が懸念される事態となりました。その1つ、奈良県最南端・十津川村の通信ビルでは、通常使われる国道が各所で寸断。レンタルエンジンをトラックに積み込んだ復旧チームは、衛星電話で現地在住の協力会社と連携をとりながら国道を迂回、三重県尾鷲市などを経由して現場に到着、発電機を設置し電源供給を行いました。その走行距離は実に片道280kmにもおよびました。

通信設備の電源確保が急務となるなか、3日には県西南部に位置する五條市に電源復旧の中継拠点を設置。発電機4台とスタッフを配置し、即座に電源供給に向かえる態勢を整えました。中継伝送路の寸断により、通信施設の監視装置の通信も途絶するなか、NTTグループ各社等と連携を密にすることで円滑に情報収集や作業を進め、通信を早期に復旧させました。



安心安全な通信環境の提供

こうした取り組みの一方で、課題も散見されました。たとえば、広域で長期にわたる停電が発生した場合に備え、衛星電話による通信手段の確保、通信ビルの地域性を勘案した蓄電池耐用保持時間の設計などです。これらの課題を解決することで、災害に対する備えをさらに強固にし、お客さまへのより安心安全な通信環境の提供をめざします。

*1 情報連絡室
非常災害発生時等に対策活動および情報共有活動をする災害対策組織。

Safety

通信を止めないために

NTTファシリティーズグループでは、大規模災害発生時の迅速な対応をめざした防災演習や、地震観測網構築への協力、通信設備の耐震技術開発を行う等、通信を守ることで社会機能維持に取り組んでいます。

首都圏直下地震(本社ビル被災)を想定した防災演習の実施

NTTファシリティーズは、2012年3月9日に東京湾北部地震（震度6強、マグニチュード7.3）の発生を想定し、西日本本部、関西事業本部、NTTファシリティーズ関西による「本社機能代行の明確化」を目的とした防災演習を、本社対策本部、西日本・関西対策本部、東日本オペレーションセンタ、西日本オペレーションセンタ、カスタマセンタ、および被災想定地である東京事業部の6拠点で実施しました。

首都圏直下地震発生後における西日本・関西対策本部の設置から本部員の召集、情報収集（社員安否、被災状況等）および燃料オペレーション等、本社対策本部設置後の引き継ぎまでの初動体制を確認しました。

また、電話回線、携帯電話が使用できない場合を想定し、衛星電話を活用した情報連絡を行い、より実践的な演習を実施し

担当者から 村上喬司 安全統括部 災害対策室



東日本大震災等の教訓を踏まえ、災害復旧活動に備えた体制整備、システム導入などを行い、またそれらを全国展開することでNTTファシリティーズグループにおける災害対策の強化を図っていきます。

「全国地震観測網」と「耐震性能の評価・検証システム」

NTTグループにおける地震観測は、国主導で進められていた地震観測網の構築に協力する形で1959年に始まり、現在では全国の主要な電話局等に強震計を設置し、観測を行っています。計測された地震記録を分析し、通信ビル特有の振動特性を把握することで、建物のなかに収容されている通信設備の耐震規格策定に役立てています。

また、2010年6月に運用を開始した3次元振動試験システム「DUAL FORCE」は、巨大地震による長周期から環境・輸送振動といった短周期まであらゆる揺れを再現できるため、ICT装置や各種重要設備の耐震性の検討・評価が可能です。本システムを用いて機器の挙動や損傷要因を解明し、ICT装置や各種設備向けの先進的な耐震対策技術の開発を進めています。

担当者から 永島茂人 研究開発本部 リスクマネジメントシステム部門



東日本大震災で得られた地震記録をもとに、分析や振動試験により耐震対策技術を開発し、お客さまに安全・安心を提供していきたく努めています。

▶ 関連ホームページ
http://www.ntt-f.co.jp/news/heisei22/h22-0524_2.html (ニュースリリース)

ました。今後も大規模災害が発生した場合に、各対策組織および本部員が迅速かつ的確な行動をとれるよう繰り返し演習を行い、災害対策の習熟を図っていきます。



本社対策本部



西日本・関西対策本部



デジタル強震計



3次元振動試験システム「DUAL FORCE」

環境マネジメント

「環境ビジネスを先導する企業」として、効果的な環境マネジメント体制のもと、環境負荷や環境リスクの低減など、環境問題の防止と解決に向け積極的に取り組んでいます。

環境保護推進体制

環境負荷や環境リスクの低減などに向けた取り組みをグループ横断的なものとし、より実行性を高めかつ効果的な活動を推進していくため、社内委員会の一つに副社長を委員長とする「地球環境保護推進委員会」を設置しています。

委員会では、地球環境保護基本理念・基本方針の策定・見直しや環境負荷低減活動などの年度別目標を明示した「環境保護推進アクションプログラム」を策定するとともに、継続的・発展的な活動内容を決定し、取り組みの推進につなげています。

地球環境保護基本理念

NTTファシリティーズグループは、「地球環境を考えた統合ファシリティサービスでお客様から最も信頼されるパートナーとなる」との企業ビジョンに基づき、人類が自然と調和し、未来にわたり安心・安全で豊かな社会の実現のため、地球環境の保護に向けてグループを挙げて取り組んでいます。

地球環境保護の基本方針

- 1. 地球環境保護に寄与するファシリティサービスの提供**
当社が培ってきた研究開発力、技術力、ノウハウを社会に提供し、地球環境保護に貢献します。
- 2. 企業責任の遂行**
全社的な環境マネジメントシステムの構築により自主的な環境保護に取り組み、環境汚染の未然防止と環境リスク低減の推進を図ります。
- 3. 社会活動への参画・支援**
企業の社会貢献として、地域住民、行政等と連携した、日常的な環境保護活動への参画・支援を行うとともに、環境レポートの公開により社内外とのコミュニケーションを図ります。
- 4. 生物多様性の保全**
生物多様性と事業との関わりを把握し、生物多様性を将来世代に引き継ぐために取り組みを推進します。

2011年度環境保護推進アクションプログラム

地球環境保護推進委員会で決定する「環境保護推進アクションプログラム」では、事業活動にともなう環境負荷の低減と、当グループの環境・エネルギー事業により、社会全体の環境負

荷低減に貢献するため、対策項目ごとの活動内容と目標を設定し、全社員が一丸となって取り組みを進めています。

ISO14001 認証取得による環境マネジメント

当グループは、本社、地域会社およびグループ会社単位でISO14001の認証を取得し、各種法規制の順守やCO₂排出量の削減などに取り組んでいるとともに、環境マネジメントシステムの強化と、取り組みの充実・発展に向け、内部監査員養成研修（2011年度資格取得者は18名）の実施による監査員の

拡大などに取り組んでいます。また、2011年度末における当グループの社員カバー率（役員・社員・退職再雇用者・契約社員）は76%となっています。2012年度は本社・地域会社ごとの認証の全国統合を進めています。

第15回環境経営度指標ランキング

NTTファシリティーズは「第15回 環境経営度調査」（主催：日本経済新聞社2012年1月29日発表）の、非製造業「通信・サービス部門」において、2008年以来3年ぶりに第1位と評価されました。

この調査は1997年から毎年実施している調査で、環境経営

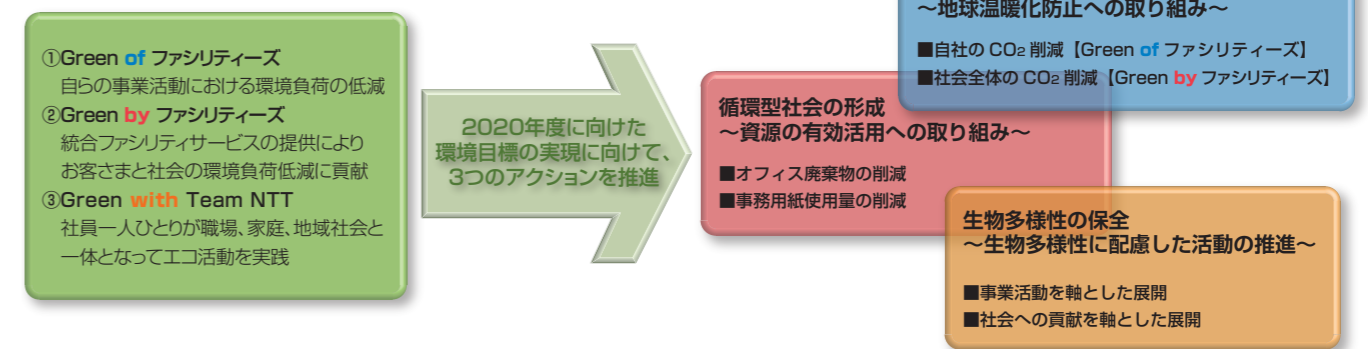
推進体制、汚染対策・生物多様性対応、資源循環、温暖化対策等、企業の環境対策を総合的に評価するものです。

当グループは、今後も事業活動を通じて地球環境の保護と改善をめざします。

2020年度に向けた環境の取り組み

低炭素社会の実現、循環型社会の形成、生物多様性の保全を取り組むべき3つの環境テーマとしてとらえ、2020年度に向けて「Green of ファシリティーズ」、「Green by ファシリティーズ」、「Green with Team NTT」の3つのアクションで地球環境保護の取り組みを推進していきます。

■NTTファシリティーズグループ 「2020年度に向けた3つの環境テーマと3つのアクション」



生物多様性の保全

「環境ビジネスを先導する企業」として、社会的な意識の高まりに応える生物多様性保全の取り組みを推進していきます。

生物多様性保全の行動指針

NTTファシリティーズグループは、生物多様性に配慮した活動の推進に向け、その具体的行動の基本を明示した「生物多様性の保全に関する行動指針」を制定しています。

生物多様性の保全に関する行動指針

NTTファシリティーズグループは、環境ビジネスを先導する企業として「生物多様性の保全」に向けた取り組みを、全社を挙げて推進していきます。

(1) 基本方針

- 事業活動を軸とした展開
あらゆる活動が地球上でつながり生物多様性に関わりが深いことを認識し、国内外における事業活動の範囲とその影響を把握することにより、保全効果が認められる取り組みを継続的に推進します。
- 社会への貢献を軸とした展開
事業との関連性にとらわれず、広く生物多様性の保全に向けた取り組みを幅広いステークホルダーの皆さまとともに推進し、その成果を情報公開していきます。

(2) 取り組みの実行

- ・外部ステークホルダーとの連携による生物多様性保全状況の情報収集
- ・情報収集に基づく生物多様性保全の実行

(3) 取り組みの点検、成果と課題の抽出等

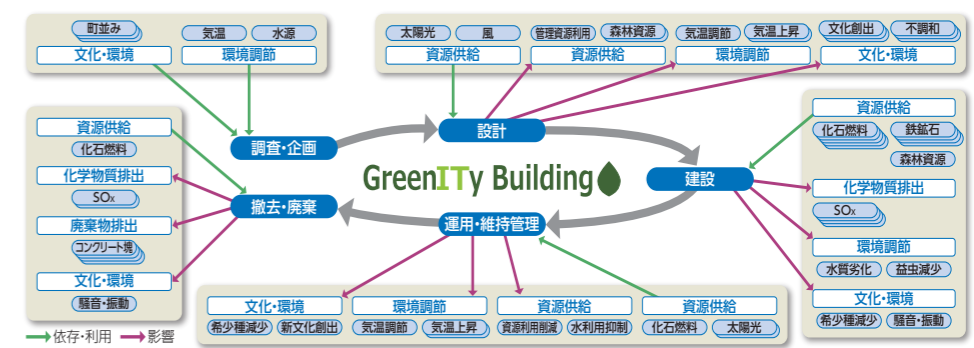
実行状況やその結果を点検し、成果と課題を抽出する。課題を解決し、より良い取り組みとするために、手法や計画等を見直す。

生物多様性のリスク分析実施と関係性マップを作成

NTTファシリティーズグループは「生物多様性保全」=「生物の多様性と、それによる恩恵を保全すること」と認識し、各事業への対応を本格化させています。「グリーンITビルプロジェクト」や「ソーラープロジェクト」等の主な事業活動と生物多様性保全の影響を把握するため、生物多様性に関するリスク分析を実施、要因を抽出し、対策のプライオリティを整理しています。リスク分析に当たっては、自らの直接的な活動だけでなく、仕入れ先や利用者サイドなどの間接的に影響を与えるシーンまでを含め、ライフサイクル全体についての生態系サービスへの依存と影響の分析を実施しました。またその結果を「生物多様性保全の関係性マップ」として可視化し、活用しています。

現在はこうした分析結果をもとに行動計画の検討を行っています。

■グリーンITビルプロジェクトと生物多様性の関係性マップ（略図）



JBIB企業と生物多様性の関係性マップ® 準拠
 ※ 当マップは主な生態系サービスのみを示した略図です。

設備の高い安全性と信頼性の確保

NTTファシリティーズグループは、人身事故・人為事故の撲滅に向けた取り組みや、設備事故防止・保全に向けた現場力向上をめざすことで、設備の高い安定性と信頼性の確保に努めています。

安全統括部の発足

NTTファシリティーズグループは、電力・建築業務における事故撲滅に向けた新たな取り組みとして、安全に関する活動について、計画(Plan)⇒実施(Do)⇒評価(Check)⇒改善(Act)を組織的かつ継続的に実行する仕組みである「労働安全マネジメントシステム(F-OSMS)」を導入しました。

またF-OSMSの展開を推進し、NTTファシリティーズの安全管理体制をより強固に構築するための組織として、従来の災害・安全対策室の機能を強化した「安全統括部」を、2011年7月に設置しました。

安全統括部は、下記を主たる役割として、各事業本部・ブロック支店等と連携して、NTTファシリティーズグループの安全水準の向上に努めます。

- ・F-OSMSの全社的な導入および展開の推進
- ・全社的な安全方針、安全計画の策定
- ・事故防止に向けた事業部横断的な対策の立案と水平展開
- ・災害対応の体制構築、災害対応計画の策定

安心安全な保守サービス提供のための「移動式技術支援車」導入

2012年3月、保全業務におけるスキルおよび安全意識の向上を図るべく、全国どこでも自由に実機に触れられる機会を提供可能な「移動式技術支援車」を開発・導入しました。

これまで各保守拠点では、保全業務における作業手順に準じた実機動作確認や故障時動作の追体験・実機解析等を自由に行える環境がなく、装置を前にした目視や、取扱説明書・報告書に頼るといった状況であったため、実機操作や事故事例の検証などができる設備がほしいという声があがっていました。

本車両は、車内に発電装置を搭載し各装置へ給電することにより、車両単体での実機体験を可能としたものです。また本車両を1つのビルに模擬して監視環境を構築しており、操作と連動した警報動作確認も可能です。

なお、車両は環境に配慮し、ハイブリッドのトラックを採用しています。

「移動式技術支援車」実機演習の様子



移動式技術支援車



搭載装置

ユビキタス社会の実現に向けて

NTTファシリティーズグループは、NTTグループが創造するブロードバンド・ユビキタス社会の実現に向けた取り組みの推進に対し、豊富な経験と確かな技術力で高信頼・高品質のファシリティーズサービスを提供しています。

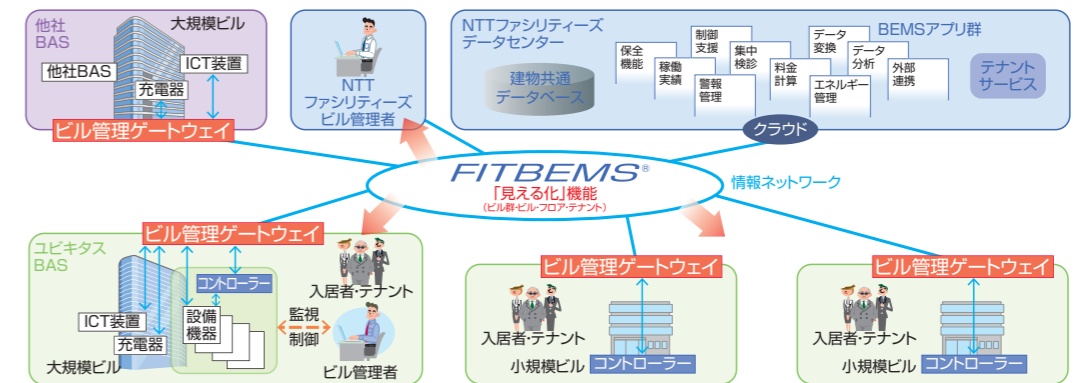
「FITBEMS®」によるクラウド型のスマートなBAS、BEMSの展開

NTTファシリティーズグループは、ICTを活用して、建物の空調・照明他各種設備を遠隔制御するクラウド型のBAS*1および室内環境とエネルギー性能を最適化し、経済的で安全なビル運用を支援し、ビルエネルギー管理を行うクラウド型のBEMS*2を開発し、「FITBEMS®*3」として提供しています。

このサービスはこれまで培ったエネルギー最適供給制御技術、ビルの最適運用のためのBEMS技術等をベースに、大規模ビル、中小ビルや電力会社、地域冷暖房会社、EV充電器などの設備をICTで連携させることに特徴があります。エネルギーの喫緊課題である節電や省エネおよびエネルギー負荷の平準化

の決め手として期待が高く、エネルギー利用の最適化を実現するものです。これを利用し、スマートコミュニティの構築、ユビキタス社会の実現をめざしていきます。

- *1 **BAS : Building Automation System**
建物内の受変電設備、空調設備、給排水設備、照明設備、防災設備などの設備監視や運転制御を一元的に管理する装置、ビル管理システム。
- *2 **BEMS : Building and Energy Management System**
室内環境とエネルギー性能を最適化し、経済的で安全なビル運用を支援するシステム、ビルエネルギー管理システム。
- *3 **「FITBEMS®」: フィットベムス**
NTTファシリティーズによるITを活用したBAS/BEMSのこと。



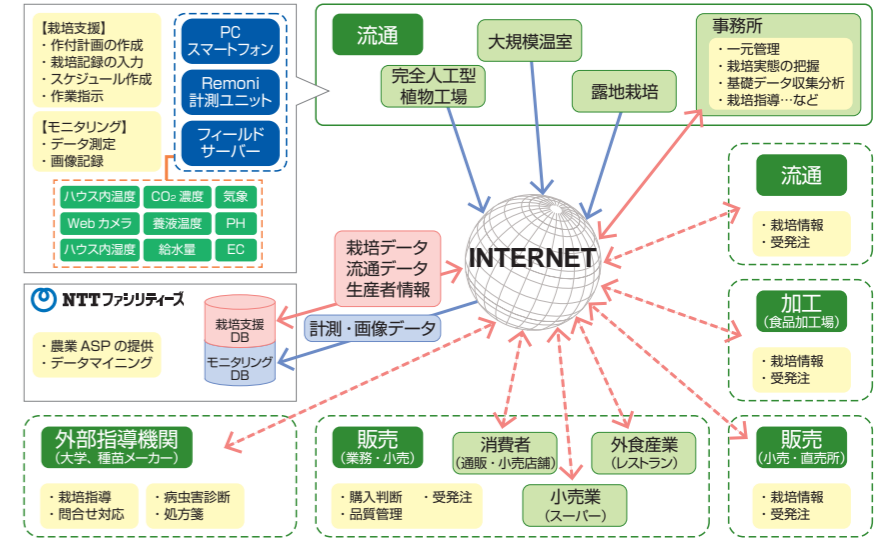
農業ITシステムおよび植物工場等の共同実証プロジェクトを実施

2011年3月11日の東日本大震災により、農業は生産から加工、販売の広範囲にわたり甚大な被害を受けました。今後、農業の復興に向けては、農業基盤の集約、共同化、高度化、エネルギー自給率向上といった課題が山積するなか、農業とIT融合による新産業創出が期待されています。

こうした状況を受け、NTTファシリティーズは、一般社団法人おらが大槌夢広場*1・明治大学等と共同して、農産物の生産から流通、加工までの各工程とITサービスを融合させた新産業創出に向け、農業ITシステムおよび植物工場等の共同実証プロジェクトを岩手県上閉伊郡大槌町で実施しています。

具体的には、露地、温室および植物工場等の各施設において、農業生産物の品質向上、栽培管理の効率化、農業経営の安定化のために、生育環境や育成状況のモニタリング情報や栽培計画・記録情報等の栽培支援など、生産から流通・加工・販売までを含むシステムの開発をめざします。

農業IT (モニタリング×栽培支援システム) のイメージ



*実線は実証を行うことが決まっている内容。破線は今後システム開発をめざす内容。

- *1 **一般社団法人おらが大槌夢広場**
大槌町を中心に、町民・各分野の専門家・サポーターとともに、知恵と行動を結集して、観光業・商工業・農業・水産業の再建と生活・雇用支援を目的に設立。

社会貢献活動

NTTファシリティーズグループは、社会の一員として地域と一体となった環境・社会貢献活動や、事業の強みを活かした環境教育を積極的に実施しています。

ソーラーUFOによる環境・社会貢献

2009年度からCSR活動の一環として、太陽光発電による水浄化システム「ソーラーUFO」を活用した環境・社会貢献活動を実施しています。「ソーラーUFO」は、直径5mの円盤型の浮体の上に太陽電池を設置し、内部に搭載した濾過システムや水中に空気を供給する曝気システムなどを太陽光発電の工

ネルギーで作動させ、水を浄化させます。

2011年度は、大阪城外堀（大阪市）と舞鶴公園（福岡市）に設置しました。現在は、越谷レイクタウン（越谷市）と名古屋大学鏡ヶ池（名古屋市）に設置しています。



越谷レイクタウン（越谷市）



名古屋大学鏡ヶ池（名古屋市）

不法投棄対策

NTTファシリティーズ九州と熊本県は、2012年1月26日、地域環境保全や社会貢献の観点から、「廃棄物の不法投棄の情報提供に関する協定書」を締結しました。

廃棄物の不法投棄は、人目につきにくい時間と場所を選んで行われるなど、悪質・巧妙化しています。こうしたなか、当社は、

不法投棄が発生しやすい山間部の交換所等を保安点検などで訪ねる機会が多いことを踏まえ、協定の締結に至ったものです。

なお、NTTファシリティーズグループにおいては、北海道・宮城県・山形県・茨城県・三重県で同様の取り組みを行っています。



調印式の模様

協定の内容

NTTファシリティーズ九州の役割

- 従業員に対する本協定の趣旨の周知
- 従業員が円滑な通報を行うために必要な県との連絡調整
- 不法投棄と思われる状況を発見した場合の県への情報提供

熊本県の役割

- 不法投棄を発見した場合の手続きを記載したマニュアル等の配布
- NTTファシリティーズ九州の従業員に対する説明会や情報交換会等の開催
- その他、NTTファシリティーズ九州の不法投棄防止活動への協力



不法投棄監視協力車シール

第三者意見



大石美奈子（おおいし・みなこ）

公益社団法人
日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会
理事・環境委員長

昨年に引き続き、NTTファシリティーズグループのCSR報告書に第三者としてコメントさせていただきました。社名にNTTがつく御社は通信分野の会社というイメージがありますが、最近のエネルギー関連の新聞記事で、エネット*1とともに御社の社名も度々目にしておりましたので、「エネルギー」分野や災害復旧を含めた「建築」分野についても興味深く拝見させていただきました。

■電力自由化の進展に関して

東日本大震災をキッカケとして、エネルギー問題はいまや国民の最大の関心事となっています。今後、電力の自由化が進み、配電電分離*2等が現実のものとなった場合、日本最大の通信ネットワークNTTグループの中で、エネルギー事業の要である御社の役割は社会的にもますます重要なものになると思います。関連会社のエネットは新電力最大とのこと、電力自由化を視野に入れて未来を先取りした戦略的ビジョンのようなものがあればなおよかったのではないのでしょうか。

■スマートな社会の実現に向けて

トップコミットメントにある「自然災害のリスクにも強く環境にもやさしいエネルギーを効率的に利用するスマートな街づくり」という頼もしい宣言に加えて、特集ページでは、ネガワットアグリケーションサービス*3など、スマートな社会をつくっ

ていくためのエネルギーや通信の分野での個々の取り組みが詳しく描かれており、大震災以降、御社の活躍の場がさらに広がっていることがよく分かりました。現在、エネルギーの選択肢に関する国民的議論が進められています。仮に原子力発電を0パーセントにしようとした場合、日本の現在のエネルギー需給状況においては徹底した節電はもちろん必須となりますし、立地条件や自然環境に左右される再生可能エネルギーには課題も多くハードルはとて高いと思われます。御社がこれまで培ってきたあらゆる技術が、このハードルを越えるための大きな力の1つになることを期待しています。

■生物多様性と農業分野での取り組み

報告書には、環境ビジネスを先導するうえでの生物多様性の関係性マップが描かれており、本業での展開に期待します。また、食料生産の基礎となる農業分野は、エネルギーと共に日本の未来を支える重要な分野です。これまで経験したことがない激しい気候変動により植物の生育域の変化や収量の減少など深刻な影響が出ています。そんななか、農業ITシステムおよび植物工場等の共同実証プロジェクトは大変注目すべき取り組みだと思います。それこそ社名にNTTがつく御社に農業というイメージはありませんが、サツマイモの水耕栽培による緑化システム（グリーンポテト）を開発販売してきた経験を活かし、ぜひ農業の分野でも力を発揮していただきたいと思います。

*1 株式会社エネット

株式会社NTTファシリティーズ、東京ガス株式会社、大阪ガス株式会社により設立された特定規模電気事業者。地域の電力会社以外に電気の供給事業に新規参入した事業者の中でのシェアはNo1（約50%）。

*2 配電電分離

発電事業と送電事業を別の会社が行うようにすること。

*3 ネガワットアグリケーションサービス

お客さまの省エネ行動や節電機器等による節電分を集約しエネルギー供給事業者へ提供するサービス。

公益社団法人
日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会（NACS）

1988年に通商産業省（当時）の認可を受け発足。消費者の利益と企業活動との調和を図り、地球規模の環境、安全、発展を視野に入れ幅広く活動、2011年4月より公益社団法人化。審議会や委員会にも消費生活の専門家として参画。

第三者意見を受けて ▶ 株式会社NTTファシリティーズ CSR推進室

東日本大震災の後、エネルギー問題に対する考え方や地震、風水害等からいかに街や生活を守るかといった安全に対する意識が大きく変わったと思われます。

今回のCSR報告書では「Smart & Safety」をキーワードに特集を組み、エネルギーを効率的に使うスマートな社会の実現に向けた活動（Smart）、また自然災害等のリスクから建物や設備を守り、事業を継続させる活動（Safety）を中心に、「企業倫理」「情報セキュリティ」「環境保護」「人権啓発」といっ

たCSRのそれぞれの分野での取り組みをステークホルダーの皆さまになるべく分かりやすく伝えることを考え作成しました。

大石様からコメント頂いた「電力自由化の進展への対応」「生物多様性と農業分野での取り組み」については、事業活動を通じた社会への貢献として当グループで新たに何が出来るのか、社会の動向も踏まえながら、事業活動の見直しを今後とも継続的に行っていきたくと考えております。